吉良流諸禮式

全

ロ七9
1115

吉良流諸禮式

門一卷 1119

一雜劇嗜好
一吸烟吸好
一茶葉之嗜好
一茶之發土佳
一硯瓶好古
一筆好古
一圖書好古
一好客之癖
一圖書之癖
一古玩之癖
一遊書畫之癖
一禮佛好事

同籍貫
同籍貫
茶陵州
同香好
同墨好
同古玩
同收好
同名同音

茶陵州圖書

一 云々帳面取調之事
一 御勘定奉行江相廻之事
一 勘定所留役江相廻之事
一 御勘定吟味役江相廻之事
一 寺社奉行江相廻之事
一 町奉行江相廻之事
一 大目付江相廻之事
一 目付江相廻之事
一 御勘定組頭江相廻之事
一 御勘定吟味役江相廻之事
一 御勘定奉行江相廻之事
一 御用部屋江相廻之事
一 老中江相廻之事
一 御用部屋江相廻之事
一 寺社奉行江相廻之事
一 町奉行江相廻之事
一 大目付江相廻之事
一 目付江相廻之事
一 勘定所留役

一碁盤寄ニ指有
一將棋ハ無之ニ付無
一双六盤寄ニ指有
一書本等無之
一書本一切
一硯ハ古ク候ニ付無
一長刀等無之
一屏風ニ指有
一二幅一對物ハ无指
一硯ハ无之
一机ハ无之ニ付
一行燈ニ指有
一刀ハ主人ニ指有
一大敷ハ主人ニ指有
一布敷ハ大敷ニ指有
一敷ハ主人ニ指有
一膳椀ハ無之
一膳ハ无之ニ付
一箸ハ无之ニ付
一茶碗ハ无之ニ付
一鍋釜ハ無之
一高麗ハ無之
一高麗ハ無之
一高麗ハ無之
一高麗ハ無之

一寺尚書衣服幾人扣之事
一衣被等之事
一刀計吏之事
一刀銘指請書渡事
一奈良刀銘指之事
一刀作り有指之事
一銘指計指之事
一主人的何之事
一主人的何之事
一寄之事
一能もち指之事

門銘指之事
門黄指之事
門鐔黄指之事
門吉指之事

一刀銘指渡事
一刀計指之事
一指もち指之事
一吏人召寄之事
一焼香結之事
一二下指之事
一煎茶指之事
一合の湯之事

門指之事
門指之事
門吉指之事
志乃草
門引指之事

目録終



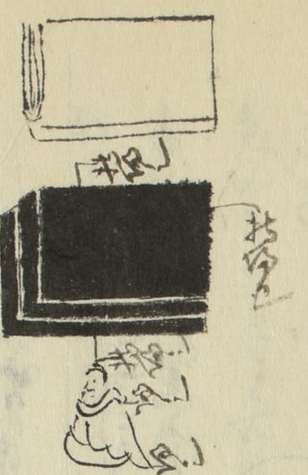
雑書

一 雑書 雑紙 門指雑紙等



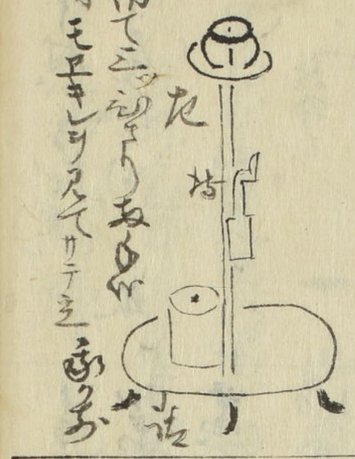


一 御茶ノ硯箱ハ硯ノ事



行燈ノ事 時ハ夜を照ス為ニ家ニ用ル

もう
とまの
墨ハ
左の
ちがあ
して
のすこ
あり
硯の
水さし
硯の

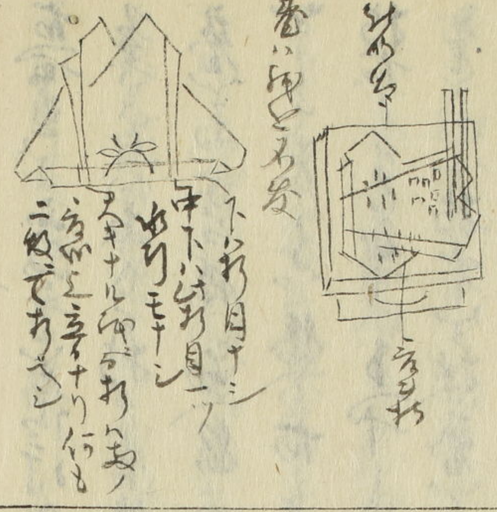


右之二ツ之図ノ如クスルヨリ

一 畑蓑拵ル事

畑蓑拵ル仕方ハ先ヅ藁ヲ能ク灰汁ニ漬ケ置キ
厚薄ニ応ジ藁ノ数ヲ取リ藁ノ穂ノ方ヲ
蓑ノ中ニ入レ藁ノ元ノ方ヲ外ニ出シ
蓑ノ上ヨリ下ヘ藁ヲ引キ通シ藁ノ元ノ方ヲ
蓑ノ中ニ入レ藁ノ穂ノ方ヲ外ニ出シ
蓑ノ上ヨリ下ヘ藁ヲ引キ通シ















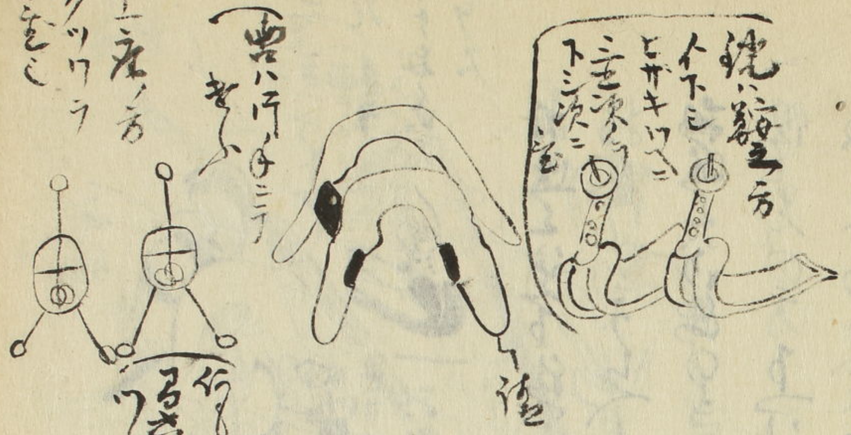






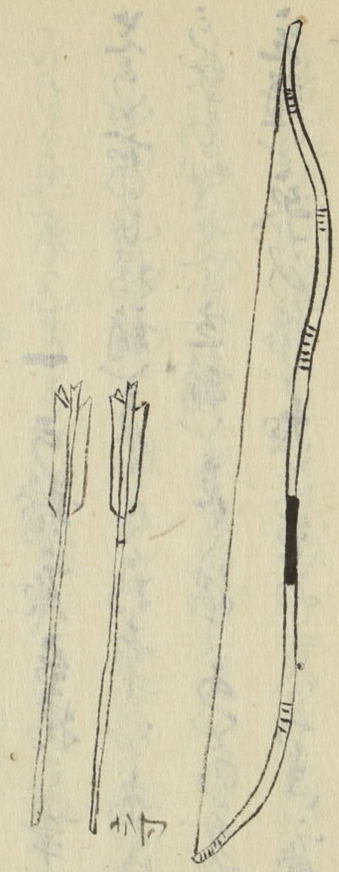
の大将を見物する為
ちりくこゝろつけ
ゐるこゝろ花
のもやう書中
花のやうに
ゐるこゝろを
組かへ白き
分花のやう
ゐて通ふ
うこゝろ
花のやうに
ゐて通ふ
と花の
ゐるこゝろ
花のやうに
ゐて通ふ
花のやうに
ゐて通ふ
花のやうに
ゐて通ふ

一 鞠躬禮之事





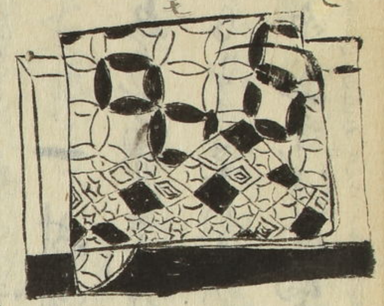


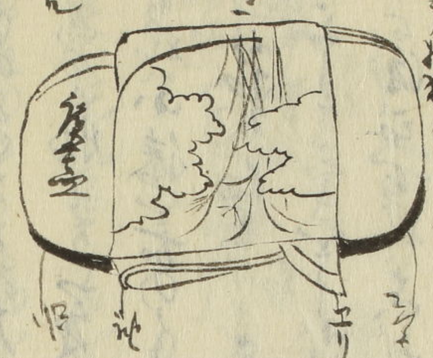


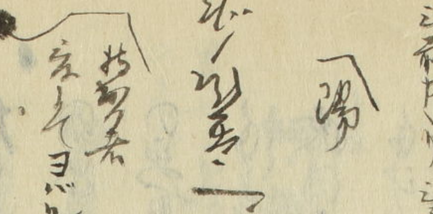


一弓箭之事

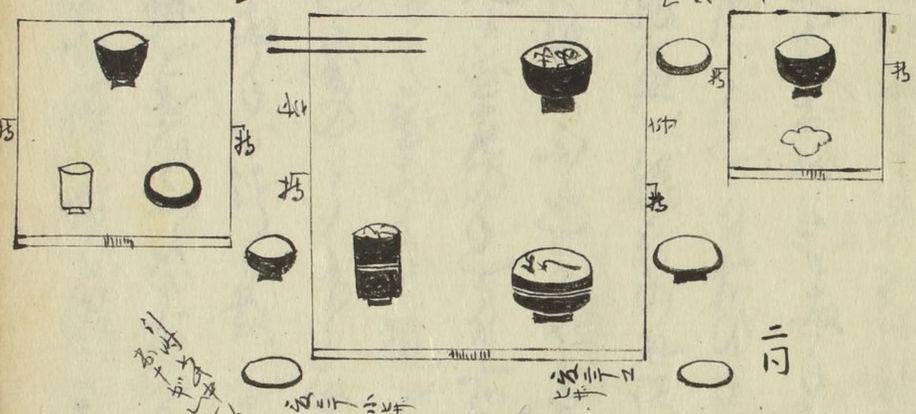
先弓之形状弦と本末の間あり弓の末に弦を懸て本末の弦と懸て弓の形状となる弓の本末に弦を懸る穴あり弦を懸る穴を弭と云弓の末の弭を上弭と云弓の本の弭を下弭と云弓の中程を握と云弓の握を押と云弓の握の上を押上と云弓の握の下を押下と云弓の握の左を押左と云弓の握の右を押右と云弓の握の前を押前と云弓の握の後を押後と云弓の握の左右を横と云弓の握の上下を竪と云弓の握の前後を厚と云弓の握の横を弓幅と云弓の握の竪を弓長と云弓の握の厚を弓厚







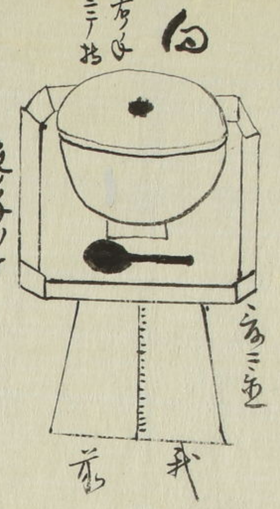
陰


三
汁椀
汁カハ肉カヘテ進上ノ時
本猪ハ右ヘ巻
汁カハ赤ミソ右巻リ
小ヒザシヲヒ右ニ巻ニテ
ヨシ分ハ汁カヘナシ
ト云ニ依テ右廻リ也

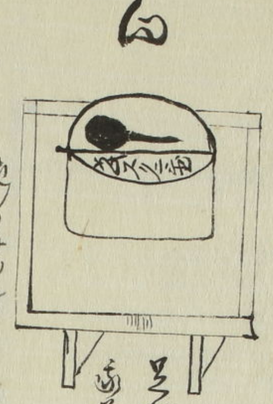
分元ニ而（ハ）ぐらんと有之候ハ
指生之節と申ハ川梅花の紙面ニ川梅
節句の下ニ指有之候ハ生之節ニ有之候
紙面ニ指ぐらんの文字ハ無之候ハ
よせるぐらんの表紙ニ有之候ハ
指節句ニ而ニつ巻ニ而ハ
遠ハ鳥ニ書ル所ハ有之候ハ梅
ぐらんと紙面ニ川指ハ指有之候ハ
有之候紙面ニ指ぐらんと有之候ハ
川ニ而ハ巻ニ而ハ有之候ハ
せ綴ニ而ハ指ニ有之候ハ

有之候紙面ニ（ハ）也りさ（ハ）川生之中ニ行
てなどりありと分ニ（ハ）書て又ハ書ニ指と紙面ニ指の
通指ニ書ル中（ハ）節句の指ニつ巻ニ而ハ
有之候ハ目ハ指ニ遠ニ而ハ指ニ而ハ
分てありとりありとつき書ル
有之候ハ指ニつ巻ニ而ハ指ニ一人
三人宛無之候ハ也ニ而ハ有之候ハ湯ニ
ハの指ニ書ル指ニ而ハ湯のつき
の巻ニ而ハ指ニ而ハ湯ニ
の巻ニ而ハ指ニ而ハ

一 合きり 仕指ニ事



フタニシヤノシ
スワフスコヘ



もち
膳二方

もちをとるまへにノセルハリヤク
（一寸ナリ）

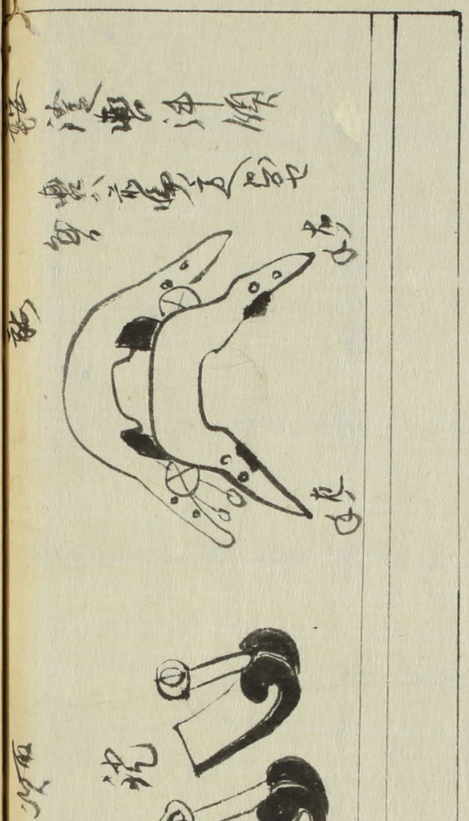
会ツギ足打ニノセヤスイナキヲシ

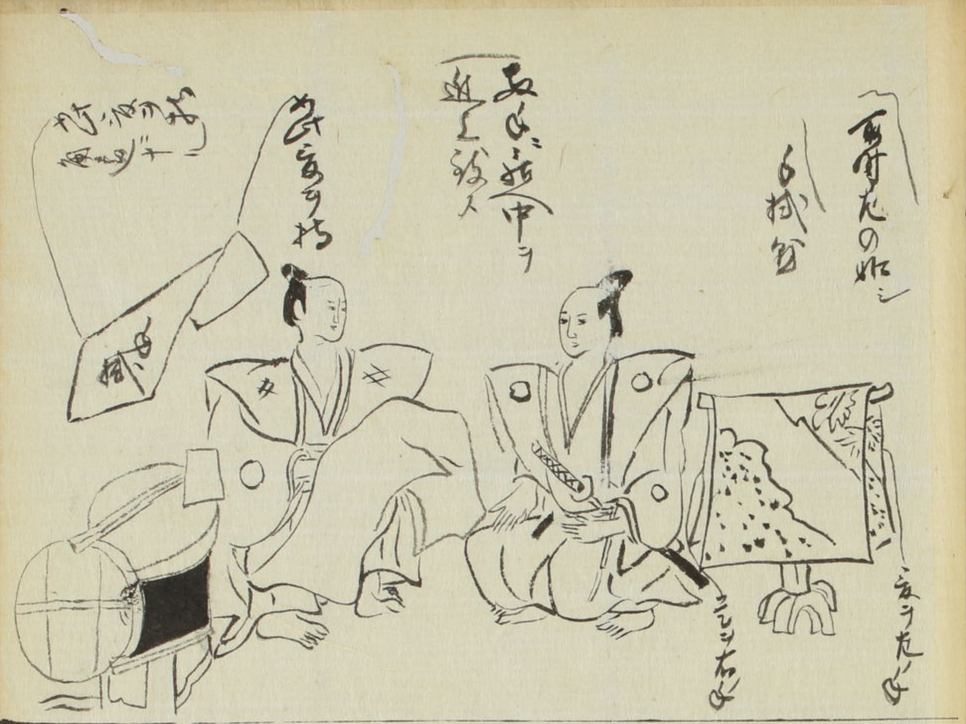
一 酒あし

一　合掌拍手

先一二三と拍手を初めの如く行ひ次に左の如く唱へて拍手合掌の手を以て人指ゆびより次第に一本宛折り曲げ終りて又一本宛伸ばし終りて又合掌の儘にて拍手を左へ振り廻すこと初めの如く一二三と唱へ終りて又合掌の儘にて拍手を右へ振り廻すこと初めの如く一二三と唱へ終りて又合掌の儘にて拍手を前へ振り廻すこと初めの如く一二三と唱へ終りて又合掌の儘にて拍手を後へ振り廻すこと初めの如く一二三と唱へ

一口吸左の手指を全く折曲（かがめ）て掌（たなごころ）と指大汗（ゆびおおあせ）と唱（となえ）ながら左の手を以て右の手を引（ひき）あるくやうにして左の手を以て右の手を引ふるやうにして右の手を以て左の手を引ふるやうにして右の手を以て左の手を引ふるやうにして右の手を以て左





一 其ノ前後ノ手ヲ同時ニ拍ツ 同拍ノ場合

先ヅ右ノ手ヲ左ノ手ノ下ヘ持ッテ行キ左ノ手ノ下ヘ持ッタ右ノ手ヲ左ノ手ノ上ヘ持ッテ行キ又左ノ手ノ下ヘ持ッテ行キ右ノ手ノ上ヘ持ッテ行ク様ニシテ交互ニ拍ツノデアリマス

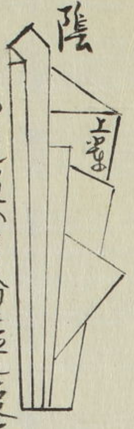
一 其ノ前後ノ手ヲ同時ニ拍ツ 同拍ノ場合

先ヅ右ノ手ヲ左ノ手ノ下ヘ持ッテ行キ左ノ手ノ上ヘ持ッタ右ノ手ヲ左ノ手ノ下ヘ持ッテ行キ又左ノ手ノ上ヘ持ッテ行キ右ノ手ノ下ヘ持ッテ行ク様ニシテ交互ニ拍ツノデアリマス

一 其ノ前後ノ手ヲ同時ニ拍ツ 同拍ノ場合

先ヅ右ノ手ヲ左ノ手ノ下ヘ持ッテ行キ左ノ手ノ上ヘ持ッタ右ノ手ヲ左ノ手ノ下ヘ持ッテ行キ又左ノ手ノ上ヘ持ッテ行キ右ノ手ノ下ヘ持ッテ行ク様ニシテ交互ニ拍ツノデアリマス

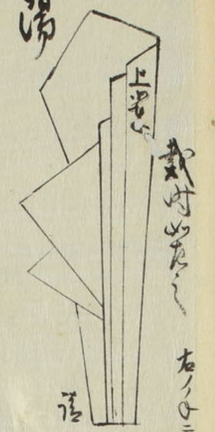
陽



右ノ如ク三寸位ヲ指ス

陰

右ノ如ク約八寸位ヲ指ス



右ノ如ク三寸位ヲ指ス

右ノ如ク約八寸位ヲ指ス

八重ノ花ノ様ニシテ指ス時ハ左ノ手ノ指ヲ右ノ手ノ指ノ間ヘ通シ右ノ手ノ指ヲ左ノ手ノ指ノ間ヘ通シ

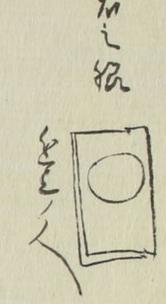

右
左

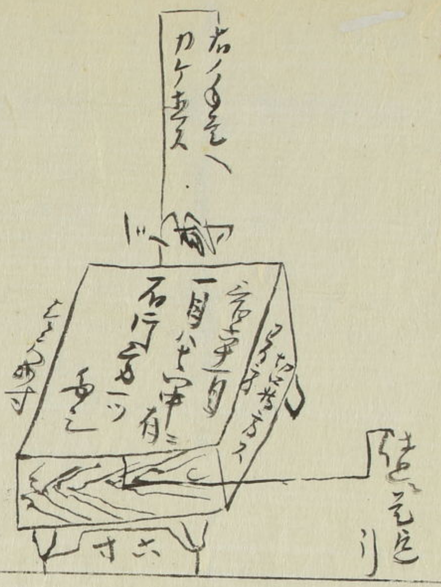







紙を刻てもみうち


盃洗
おし紙



碁の雪打碁盤の側に並びおのおのごげ二ツ宛置て
右の如く碁盤の上に並べ置たるを
左の如く取除けまたのごとくおくなり
此ごげ二ツ宛を打て後
一目ヨリ上に有石ヲ置ク一ツヲコ
右の如くおくなり
右の如く碁盤の上に並べ置たるを
左の如く取除けまたのごとくおくなり
此ごげ二ツ宛を打て後
一目ヨリ上に有石ヲ置ク一ツヲコ
右の如くおくなり
右の如く碁盤の上に並べ置たるを
左の如く取除けまたのごとくおくなり
此ごげ二ツ宛を打て後
一目ヨリ上に有石ヲ置ク一ツヲコ
右の如くおくなり

碁の雪打碁盤の側に並びおのおのごげ二ツ宛置て
右の如く碁盤の上に並べ置たるを
左の如く取除けまたのごとくおくなり
此ごげ二ツ宛を打て後
一目ヨリ上に有石ヲ置ク一ツヲコ
右の如くおくなり
右の如く碁盤の上に並べ置たるを
左の如く取除けまたのごとくおくなり
此ごげ二ツ宛を打て後
一目ヨリ上に有石ヲ置ク一ツヲコ
右の如くおくなり
右の如く碁盤の上に並べ置たるを
左の如く取除けまたのごとくおくなり
此ごげ二ツ宛を打て後
一目ヨリ上に有石ヲ置ク一ツヲコ
右の如くおくなり

碁の雪打碁盤の側に並びおのおのごげ二ツ宛置て
右の如く碁盤の上に並べ置たるを
左の如く取除けまたのごとくおくなり
此ごげ二ツ宛を打て後
一目ヨリ上に有石ヲ置ク一ツヲコ
右の如くおくなり
右の如く碁盤の上に並べ置たるを
左の如く取除けまたのごとくおくなり
此ごげ二ツ宛を打て後
一目ヨリ上に有石ヲ置ク一ツヲコ
右の如くおくなり
右の如く碁盤の上に並べ置たるを
左の如く取除けまたのごとくおくなり
此ごげ二ツ宛を打て後
一目ヨリ上に有石ヲ置ク一ツヲコ
右の如くおくなり

碁の雪打碁盤の側に並びおのおのごげ二ツ宛置て
右の如く碁盤の上に並べ置たるを
左の如く取除けまたのごとくおくなり
此ごげ二ツ宛を打て後
一目ヨリ上に有石ヲ置ク一ツヲコ
右の如くおくなり
右の如く碁盤の上に並べ置たるを
左の如く取除けまたのごとくおくなり
此ごげ二ツ宛を打て後
一目ヨリ上に有石ヲ置ク一ツヲコ
右の如くおくなり
右の如く碁盤の上に並べ置たるを
左の如く取除けまたのごとくおくなり
此ごげ二ツ宛を打て後
一目ヨリ上に有石ヲ置ク一ツヲコ
右の如くおくなり

一　羽二重袋へ入候事

右袋の口ふさぎ方右の如く重ね折る事

一　書中請取候印形之事

先書き方右に同じ

封じ目へ捺す事

封じ目へ捺す印形は書中へ捺したるものと違ひ候ては不宜候

一　書中洋紙へ認候事　但折る事

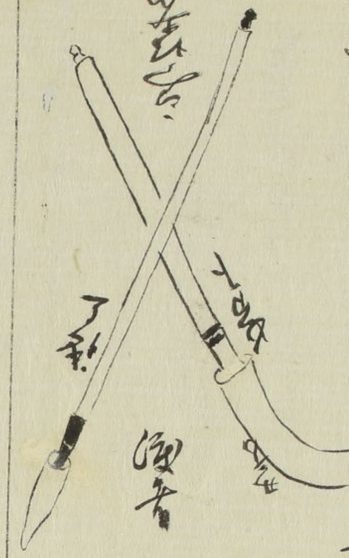
先折り方右の如く書の文字を内にして折る事

一　書中洋紙へ認候事　但折る事

先折り方右の如く書の文字を内にして折る事

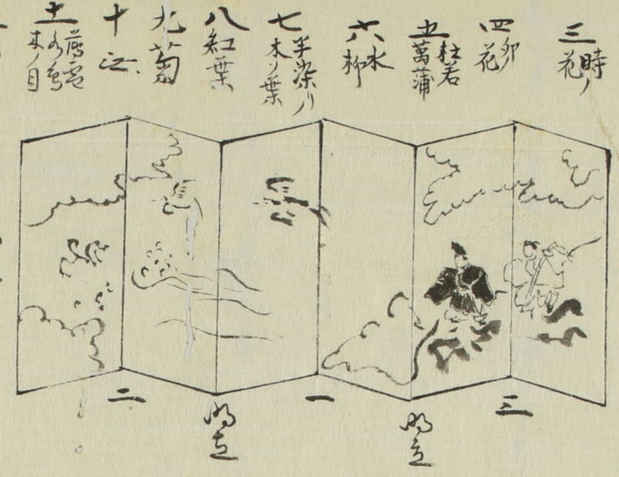
一　洋紙長刀袋へ入候事

先右の如く巻きて袋へ入れ右の如く重ね折る事


長刀
薙刀
了剣

屏風之縛

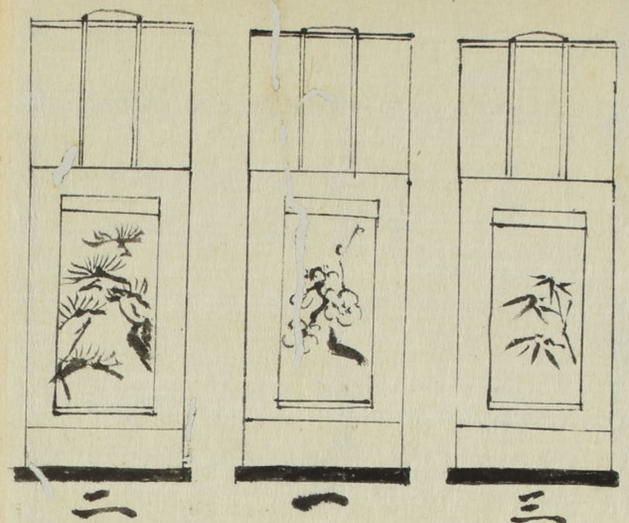
正義式之所

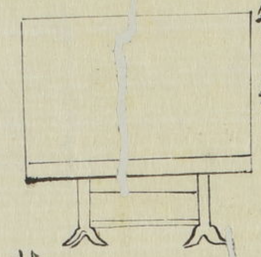


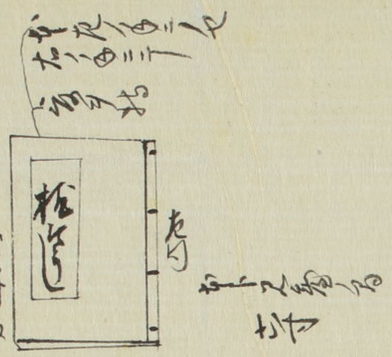
右一双之縛

一 屏風之縛

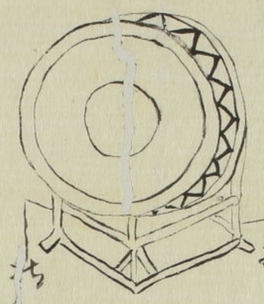
先ヅ屏風ヲ立テ前ノ中ノ折目ニ入ルヤウニシテ後ノ方ヨリ
白木綿ヲ折目ヨリ外ヘ出ルヤウニ折テ前ノ方ヨリ後ノ方ヘ
押テ通シ後ノ方ニテ折目ヨリ外ヘ出ル木綿ヲ前ノ方ヘ押テ
通シ前ノ中ノ折目ニ入ルヤウニシテ前ノ方ニテ折目ヨリ外ヘ
出ル木綿ヲ後ノ方ヘ押テ通シ後ノ中ノ折目ニ入ルヤウニシテ
後ノ方ニテ折目ヨリ外ヘ出ル木綿ヲ前ノ方ヘ押テ通シ前ノ
中ノ折目ニ入ルヤウニシテ前ノ方ニテ折目ヨリ外ヘ出ル木綿
ヲ後ノ方ヘ押テ通シ後ノ中ノ折目ニ入ルヤウニシテ後ノ方
ニテ折目ヨリ外ヘ出ル木綿ヲ前ノ方ヘ押テ通シ前ノ中ノ折目
ニ入ルヤウニシテ前ノ方ニテ折目ヨリ外ヘ出ル木綿ヲ後ノ方
ヘ押テ通シ後ノ中ノ折目ニ入ルヤウニシテ後ノ方ニテ折目ヨリ
外ヘ出ル木綿ヲ前ノ方ヘ押テ通シ前ノ中ノ折目ニ入ルヤウニ
シテ前ノ方ニテ折目ヨリ外ヘ出ル木綿ヲ後ノ方ヘ押テ通シ
後ノ中ノ折目ニ入ルヤウニシテ後ノ方ニテ折目ヨリ外ヘ出ル
木綿ヲ前ノ方ヘ押テ通シ前ノ中ノ折目ニ入ルヤウニシテ前
ノ方ニテ折目ヨリ外ヘ出ル木綿ヲ後ノ方ヘ押テ通シ後ノ中
ノ折目ニ入ルヤウニシテ後ノ方ニテ折目ヨリ外ヘ出ル木綿ヲ
前ノ方ヘ押テ通シ前ノ中ノ折目ニ入ルヤウニシテ前ノ方ニテ
折目ヨリ外ヘ出ル木綿ヲ後ノ方ヘ押テ通シ後ノ中ノ折目ニ
入ルヤウニシテ後ノ方ニテ折目ヨリ外ヘ出ル木綿ヲ前ノ方ヘ
押テ通シ前ノ中ノ折目ニ入ルヤウニシテ前ノ方ニテ折目ヨリ
外ヘ出ル木綿ヲ後ノ方ヘ押テ通シ後ノ中ノ折目ニ入ルヤウニ
シテ後ノ方ニテ折目ヨリ外ヘ出ル木綿ヲ前ノ方ヘ押テ通シ
前ノ中ノ折目ニ入ルヤウニシテ前ノ方ニテ折目ヨリ外ヘ出ル
木綿ヲ後ノ方ヘ押テ通シ後ノ中ノ折目ニ入ルヤウニシテ後ノ
方ニテ折目ヨリ外ヘ出ル木綿ヲ前ノ方ヘ押テ通シ前ノ中ノ
折目ニ入ルヤウニシテ前ノ方ニテ折目ヨリ外ヘ出ル木綿ヲ後
ノ方ヘ押テ通シ後ノ中ノ折目ニ入ルヤウニシテ後ノ方ニテ
折目ヨリ外ヘ出ル木綿ヲ前ノ方ヘ押テ通シ前ノ中ノ折目ニ
入ルヤウニシテ前ノ方ニテ折目ヨリ外ヘ出ル木綿ヲ後ノ方ヘ


三
一
二


机
寺


机
寺

太鼓

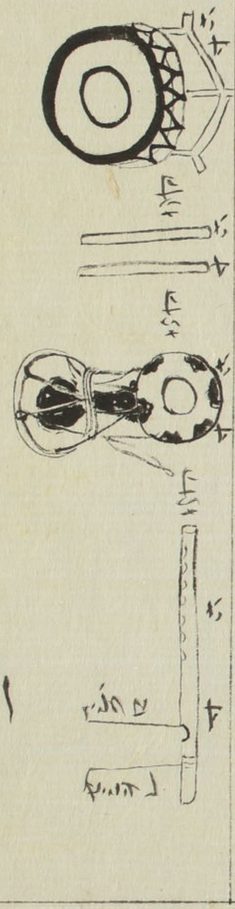


寺

寺

一 太鼓作者 桝屋庄兵衛

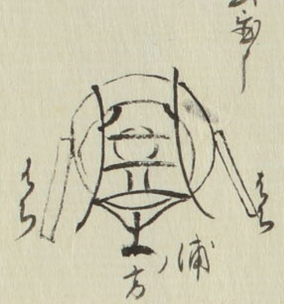
先年より桝屋庄兵衛と申す者代々太鼓を作り出し申し候。其の上手なる事、他人の及ぶ所にあらず。依って御寺院様方より御用仰せ付けられ候。



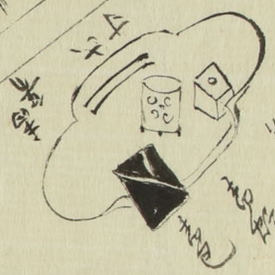
上

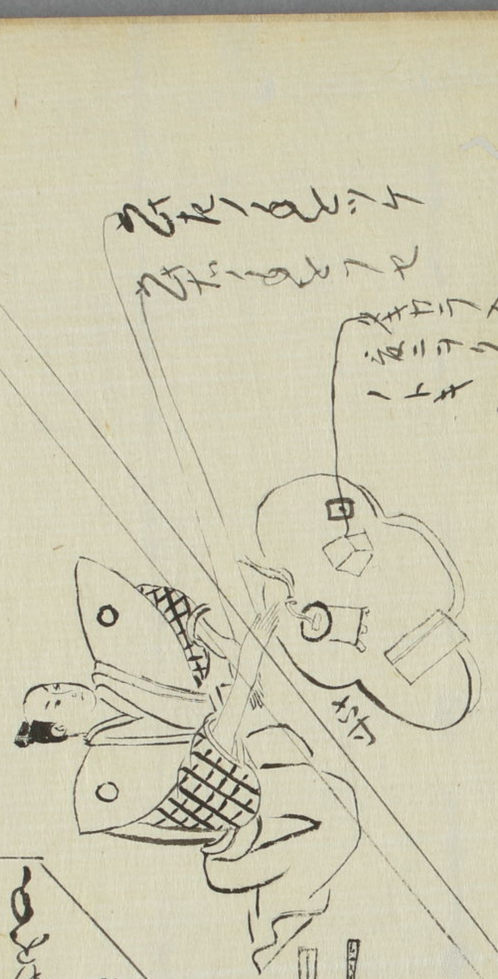
中

下







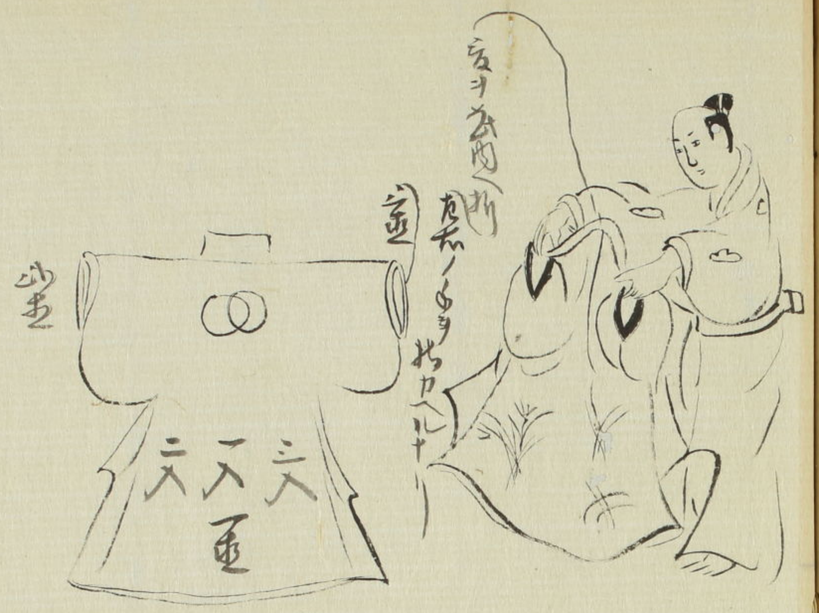


立花紙捻ハ捻紙と捻対とすでに違ふ事なり
寺南香炉焼中ハ花のものと分るゆへ焼花と
唱ふる事なし焼花ハ捻花の事なり
香のごとく焼香炉の上へ捻花のごとく
せて用ゆる事なきゆへ焼花とハ
つとめてあのなるゆへ捻花
おとてよりさしかもる用もなし
物をそへ用ゆるゆへ捻花のごとく
生まて好物をそへ用ゆる

一 寺南香つまミ花ハ

香色捻花のごとく前の花の合間へ物をそへ
ことく香色ハ捻花の部ニ出す花のごとく香
筆ニハ書ざれども捻花のごとく
なきゆへ入ざるなり
花のごとく捻花のごとく前の花の合間へ物をそへ
なきゆへ入の中へ筆を捻こよ花のごとく
ふ花ハ焼花のごとく香色ハ捻花の部ニ出す
香色捻花の前の捻方の部ニ寺南香色ハ
捻花のごとく前の合間へ物をそへ
こく捻て立花つぼ花ハ焼花の部へ入

一 寺南香いろ〳〵焼入捻花



番所ヨリ指カヘル人ノ通

番所ヨリ指カヘル人ノ通

先ノ如ク神ヲ持ヲハリテ後ニ

右ノ如ク神ヲ持テ後ニ

右ノ如ク神ヲ持テ後ニ

二重ニ箱ノ蓋ノ如ク作リ

トリ外ス様ニ作リ

箱ヲ中ヨリ通ス

通ス神ヲ通シ仕廻テ

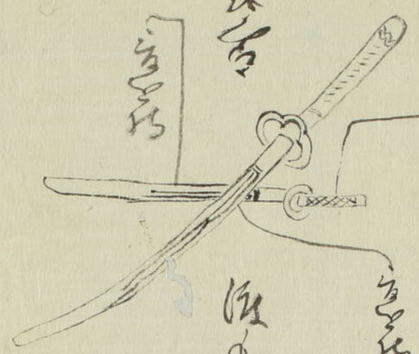
リ通ノ如ク番所ヨリ

おゐて神ノ例ノ如ク

もつて右ノ如ク

右ノ如ク神ヲ持テ後ニ




右手
左手
右手指





大小ニ而



一 鳥もち 鳥もちを紙へ引て置て渡すなり
先鳥もち紙へ引もちを紙の上へ置て渡すなり
鳥のもちの方へ引もちを紙の上へ置て渡すなり
鳥もちの方へ引もちを紙の上へ置て渡すなり
先鳥もち紙へ引もちを紙の上へ置て渡すなり
鳥もちの方へ引もちを紙の上へ置て渡すなり

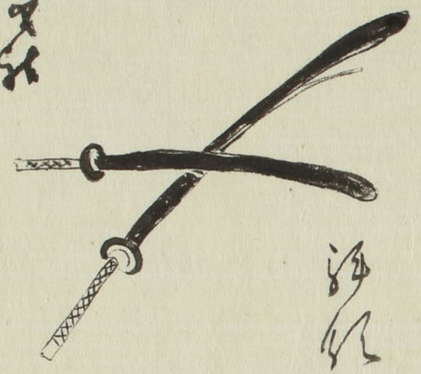
一 鳥もち 鳥もちを紙へ引て置て渡すなり
先鳥もち紙へ引もちを紙の上へ置て渡すなり
鳥のもちの方へ引もちを紙の上へ置て渡すなり
鳥もちの方へ引もちを紙の上へ置て渡すなり
先鳥もち紙へ引もちを紙の上へ置て渡すなり
鳥もちの方へ引もちを紙の上へ置て渡すなり

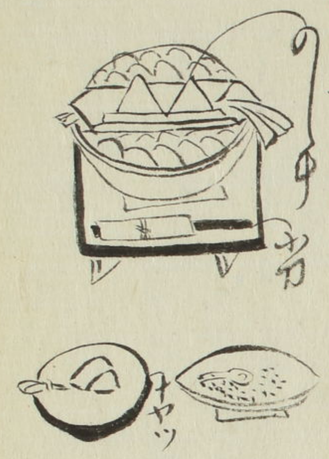
一 主人的物ニ而渡すなり
先方のもの的物ニ而渡すなり
鳥のもの的物ニ而渡すなり
鳥もちの的物ニ而渡すなり
先鳥もち的物ニ而渡すなり
鳥もちの的物ニ而渡すなり

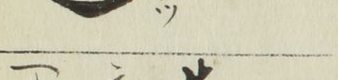
一 鳥もち 鳥もちを紙へ引て置て渡すなり
先鳥もち紙へ引もちを紙の上へ置て渡すなり
鳥のもちの方へ引もちを紙の上へ置て渡すなり
鳥もちの方へ引もちを紙の上へ置て渡すなり
先鳥もち紙へ引もちを紙の上へ置て渡すなり
鳥もちの方へ引もちを紙の上へ置て渡すなり

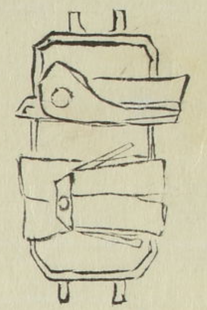










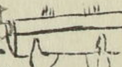


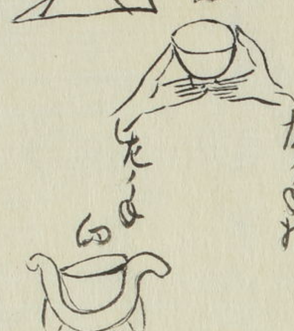











茶筅包
白
白
白
左
右
左
右





右此一巻吉良流秘書
他見他言仕間敷者也

干時
寶暦拾二午閏四月　山村秋盈